

JIS2004 とは、符号化文字集合規格 JIS X 0213 の 2004 年改訂版の通称です。したがって、JIS2004 の規定する内容については JIS X 0213 の項を参照してください。

主な改訂内容

2000 年に表外漢字字体表が国語審議会の答申として公表されたことから、JIS 漢字コード規格の例示字形をこれにあわせることを主眼として改訂されました。

例示字形の変更は、包摂規準の範囲内であることから、既存の実装に影響を与える変更にはなりません。文字コード規格の例示字形はあくまでも例示であり、厳密にその形でないといけないというものではありません。この字形の変更に追従してもしなくても適合性には影響ありません。符号化文字集合規格は文字の符号化表現を定めるものであって、フォントデザインを定めるものではありません。

表外漢字 UCS 互換

ただし、表外漢字字体表にあわせると Unicode (ISO/IEC 10646 UCS) との対応に問題を生じるものが 10 文字あったことから、これらについては独立した符号位置が新たに与えられました。これを 表外漢字 UCS 互換といいます。

追加は漢字集合 1 面に対して第 3 水準漢字を 10 文字増やすという形で行われました。漢字集合 2 面には全く変更はありません。

附属書の符号化方式の名称

これに応じて、附属書 1 から 3 の符号化方式の名称が、Shift JIS-2004, ISO-2022-JP-2004, EUC-JIS-2004 と変更されています。2000 年版ではそれぞれ、Shift JISX0213, ISO-2022-JP-3, EUC-JISX0213 でした。

エスケープシーケンス

漢字集合 1 面に文字が増えた都合上、ISO/IEC 2022 の枠組みにおいてこの符号化文字集合を指示するエスケープシーケンスが新たに設定されています。一方、漢字集合 2 面については、変更がないことからエスケープシーケンスも 2000 年版のものをそのまま用います。

具体的なバイト列はエスケープシーケンスの項を参照してください。

JIS2004 についての誤解

規格を読まずに書かれたいい加減な報道記事により下記のような誤解がたまに見受けられます。

- ・「JIS2004 はフォントの規格である」という誤解 「JIS2004 の例示字形にならったフォント」はあり得ますが、JIS2004 それ自体は文字の符号化表現を定める規格でありフォントの規格ではありません。
- ・「JIS2004 は Unicode」という誤解 規格を読んでいない全くの誤解。 Unicode は JIS X

0213 とは全く異なる符号化文字集合規格。

関連項目

- JIS X 0213
- 表外漢字字体表